

《教育長メッセージ 第16号》

『星』

私の一番好きな星は、大いぬ座の「シリウス」です。

恒星としては、全天で、太陽以外で、一番明るく見える星です。

凍えるような東北の海のそばの町の夜のことでした。

小学生でした。今でもその光景を覚えています。なぜか橋の上でした。ふと、東の空を見上げると、青白い光がゆらゆら揺れていました。寒さを忘れて、じっと、その光を見上げていました。

冬の星座は、一等星が多く、特に、オリオンは三ツ星が象徴的で、冬の夜空をドッシドッシ歩いているようで目を引きます。その後を追って、大いぬの「シリウス」が昇ってくるのです。

その後も毎年のように、冬になると夜空を見上げて、青白いゆらゆら揺れる光を見つけました。そこにあることを確認していました。

特に、冬山でめずらしく晴れた夜空に、輝く「シリウス」は圧巻でした。満天の星空の中でも、すぐに見つけることができました。

ただ、恥ずかしいことに、それが「シリウス」だと分かったのは、学校に勤めて、子どもたちに星の動きを教えるようになってからです。学校では、夏の大三角形、冬の大三角形などが学習内容にあり、「シリウス」は、オリオンのベテルギウス、子いぬのプロキオンとともに、冬の大三角形を形作っていました。

冬になると、理科の星の動きの学習もあり、よく子どもたちに、自分が子どもの頃に心を奪われた「シリウス」のゆらゆら揺れる青白い光の話をしました。ある時、クラスの男の子が「先生の星は、シリウスなんだよね。」と言ってきました。そんな滅相もない、ただ、勝手に心を奪われただけなんだと思いましたが、なんだかうれしく感じました。

今年ももちろん、夜空を見上げて、「シリウス」の光を確かめています。9月の末、夜明け前に、青白い光を見ました。

星は、悠久のように動いています。ちっぽけな人間は、その動きからすると、ほんの一瞬のような命の輝きです。最近、年老いていく自分を感じながら、これまでの自分を振り返りながら、「シリウス」を見ているところです。

さて、みなさん、冬の夜空は、一等星が多く、海老名でもよく星々を見ることができます。おうし、ぎょしゃ、ふたご、オリオン、子いぬ、大いぬと、次々に東の空から昇ってきます。



ぜひ、見上げてほしいものです。

「星」は、いつもそこに輝いています。

次回は、「通知表」について、自分の考えを述べてみたいと思います。